

# 過去の修士論文題目

## 2020 年度

『オセロー』に見る男らしさのジレンマ  
エドワード・オールビー研究

## 2019 年度

オスカー・ワイルドにおける芸術論研究  
A Comparative Study Of Shakespeare Plays  
Kurt Vonnegut 研究——Slaughterhouse-Five における戦争とマスキュリニティーの表象  
D・H・ロレンスとトルストイ——『アンナ・カレーニナ』に対する応答を中心に  
『説得』におけるユーモア研究——陰に隠れた笑いをめぐって

## 2018 年度

触覚性の詩  
Mechanism Working in Rebecca  
『ナルニア年代記』研究  
異分子としてのシャイロック  
How anxiety affects proficient non-native speakers of English  
Pale Fire at the Crossroads of Modernism and Postmodernism

## 2017 年度

シェイマス・ヒーニー研究  
Qualitative Analysis of How Japanese University Students Answer Cloze Items  
Viola's Guilt about Transvestism in Twelfth Night  
サキ “The Mapped Life” の再読  
Journeys to Neverland: A Study of the Representations of Peter Pan  
A Study of the Interactions of the Bloomsbury Group and Associated Figures with China

## 2015 年度

「イシュメールの世界——関係性とカジュアルネス」  
‘Poetics and Pedagogy: A Study of Ezra Pound’s Making of “Noh” or Accomplishment: A Study of the Classical Stage of Japan by Ernst Fenollosa’  
「サマセット・モーム研究——『お菓子とビール』を中心に」  
「『偉大なるギャツビー』における女性の役割」  
「一世の声を聞く——ヒサエ・ヤマモト作品における沈黙と聞き手」

‘Double-bind Dilemmas in Mark Twain’s Pudd’nhead Wilson’  
‘The Impact of Washback Effect on Test-taking Strategies for University Entrance Examination of English in Japan’

#### 2014 年度

‘Tolkien’s Heroism in The Hobbit’  
「『テンペスト』の眠りに関する一考察」  
「ハーマン・メルヴィル後期短編作品における倒錯のモチーフ」  
「コナー・マクファーソン『ザ・ウィアー（堰）』研究——境界を曖昧化する作品としての『ザ・ウィアー（堰）』」  
「『スーラ』における境界の作用」  
「『ヴェニス商人』における利子と娼婦のパラドックス」

#### 2013 年度

「Julius Caesar と言葉——言葉の重層性とその効果」  
「『白鯨』における霊と肉」

#### 2012 年度

「トルーマン・カポーティ研究」  
「喜劇作家の政治学」  
‘Women and the City in the Short Stories of Djuna Barnes’  
「Emilia から見る Othello の嫉妬論」  
「Francis Hodgson Burnett の空間表現」

#### 2011 年度

「息子のいない家/家のない息子」  
「『デイヴィッド・コパフィールド』試論」  
「オスカー・ワイルド論」  
「The House of the Seven Gables における「家族」の解体と再構築」  
「母なき娘の戦い」  
「ジェイン・オースティンと ‘Money’」

#### 2010 年度

「シェイマス・ヒーニーとギリシア悲劇——古典の変装」  
「“an Open Tomb” ——エミリー・ディキンソンの詩的身体構造について」 ‘From Romantic Modernist to Melancholic Writer’  
「『嵐が丘』の荒野を読む」  
「『説得』にみるジェイン・オースティンの新たな試み」  
「ポーの都市小説におけるまなざし」

「労働者階級からみた『アメリカ』」

「『自負と偏見』におけるメアリー・ベネットの存在価値についての考察」